

100 その他果菜類

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、抵抗性品種・台木、熱消毒、マルチ栽培、光利用、フェロモン剤利用、被覆栽培等により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術	申請時に別途協議する。	申請時に別途協議する。
	○抵抗性品種栽培・台木利用技術		
	○熱利用土壌消毒技術		
	○マルチ栽培技術		
	○光利用技術		
	○フェロモン剤利用技術		
○被覆栽培技術			
その他の留意事項			

101 その他葉菜類

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・機械除草、生物農薬、対抗植物、抵抗性品種、熱消毒、光利用、被覆栽培、フェロモン剤利用、マルチ栽培等により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○機械除草技術	申請時に別途協議する。	申請時品目に別途協議する。
	○生物農薬利用技術		
	○対抗植物利用技術		
	○抵抗性品種栽培技術		
	○熱利用土壌消毒技術		
	○光利用技術		
	○被覆栽培技術		
	○フェロモン剤利用技術		
	○マルチ栽培技術		
その他の留意事項			

1 0 2 その他根菜類

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・機械除草、生物農薬、対抗植物、抵抗性品種、熱消毒、光利用、被覆栽培、マルチ栽培等により化学農薬の使用を低減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○機械除草技術	申請時に別途協議する。	申請時に別途協議する。
	○生物農薬利用技術		
	○対抗植物利用技術		
	○抵抗性品種栽培技術		
	○熱利用土壌消毒技術		
	○光利用技術		
	○被覆栽培栽培技術		
	○マルチ栽培技術		
その他の留意事項			

103 その他果樹

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・機械除草、生物農薬、被覆栽培、フェロモン剤利用、マルチ栽培等により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	<ul style="list-style-type: none"> ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 ○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。 		1 ~ 2 t /10a
化学肥料低減技術	<ul style="list-style-type: none"> ○局所施肥及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○機械除草技術	申請時に別途協議する。	申請時に別途協議する。
	○生物農薬利用技術		
	○被覆栽培技術		
	○フェロモン剤利用技術		
○マルチ栽培技術			
その他の留意事項			

104 その他花き

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、熱消毒、光利用、被覆栽培、マルチ栽培等により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、パークたい肥等の施用を基本とする。		1～2 t/10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(点滴かん水施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 15～20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術	申請時に別途協議する。	申請時に別途協議する。
	○熱利用土壌消毒技術		
	○光利用技術		
	○被覆栽培技術		
	○マルチ栽培技術		
その他の留意事項			

105 その他工芸作物

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・機械除草、被覆栽培、マルチ栽培等により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	<ul style="list-style-type: none"> ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 ○緑肥作物などによる草生栽培を導入する。 		2 t /10a
化学肥料低減技術	<ul style="list-style-type: none"> ○局所施肥及び追肥体系とする。 ○有機質肥料を施用する。 ○肥効調節型肥料を施用する。 		窒素成分量 10～25%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○機械除草技術	申請時に別途協議する。	申請時に別途協議する。
	○被覆栽培技術		
○マルチ栽培技術			
その他の留意事項			